

### ◆原稿募集◆

次号の締め切りは、6月30日です

コウノトリは会員の皆さんで作る機関誌です。たくさんのお原稿をお待ちしています。1000字程度の「鳥との出会い」をはじめ、この「みんなのひろば」のような皆さんの身のまわりの出来事・紀行文・自然保護に関する主張等、400字程度にまとめていただければ幸いです。鳥信、カット、写真も大歓迎です。

原稿は手書き、ワープロ、電子メール、何でも結構です。電子メールのアドレスは、下記のとおりです。（裏表紙のアドレスには投稿しないで下さい。）

[hensyuu@mbp.nifty.com](mailto:hensyuu@mbp.nifty.com)

### ■ 雛は拾わないで.....

加古川市 名越正男

4月17日夕方。ポカポカ陽気に誘われて寺田池明神の森へ。家から自転車で10分。少し汗をかく頃現地着。センダイムシクイ2羽と焼酎一杯グイーを7回聴く。とても狭い森なのだが、過去色々な夏鳥が立ち寄ってくれる。コマドリ、コルリ、オオルリ、キビタキ、オオムシクイなど。今日はまだビンズイが5~6羽残っていて、枝の上を器用に歩いている。コチドリも1羽、コガモの側で忙しく餌をあさっている。

森の東の方へ自転車を押していると1m位のコンクリートの道に何かの雛がいて、必死に道を斜めに横断している。腰を下ろしてみると、どうやらカワラヒワの10日位たった雛のようで羽も大分生えていたが飛べるまでではない。僕の存在を無視して木の生えている下の草むらを目指して本当に必死で歩いている。近くに親は見つからなかった。

『雛を拾わないで・・・』。どこかで聞いたキャンペーンの言葉がふと頭に浮かんだ。道を渡り終え草むらでもまだ歩いていた。

「拾って育ててあげようか」という思いは強くあったのだが、キャンペーンの言葉のほうが強かったようだ。少し先を探鳥して10分くらいしてから雛のいた場所に戻り一生懸命捜したのだがどうしても見当たらなかった。

ウォーキングの人が拾ったのだろうか、カラスにやられたのだろうか……。結局少し不安な気持ちを残してその場を去った。『雛を拾わない・・・』というのは探鳥会のリーダーの時にも何度か言ったことはあったが、いざ雛を目の前にするとそう簡単でもないようだ。今度言う機会があるときにはどんな気持ちで言えばいいのか、少し考えさせられた。

### ■ シロちゃんたち

神戸市 児玉 あや

こんにちは。今回は思い出のある鳥たちを描いてみました。ヒヨドリはとてもうるさいのですが、私は好きです。よくベランダに来てくれるので観察しやすいです。最近1羽の

ヒヨドリしか来なくなっていました。

なぜ1羽とわかるかという、尾羽の下の部分はそのコだけ特別白いです。命名「シロ」。私たち(私と母)は「①シロちゃん」と呼んでいます。

シロちゃんは結構人になれています。カーテンをチラリとあけてもにげません。

こっちを見てるので気がついていると思うのですが、「この人たちはおそってこない。」とわかっているようで、最近ベランダに来たイソヒヨドリ♀と戦ってました。イソヒヨドリの負けでしたがイソヒヨドリは来てます。

このシロちゃんはとても気性があらく②スズメが大嫌い。

スズメを見ると追い放ってます。そのためスズメは来にくくなりましたが、最近は結構来るようになりました。バナナを食べるコ

もふえてます。でもやっぱりパンの方が好きみたいです。

この③ルリビタキは、森林植物園に行ったとき(探鳥会で)近距離で見えて感動したのを思い出して描きました。

とても美しく、カワイかったのを今でも覚えています。

そして④ジョウビタキの思い出は、うちの家の近くにいるのを初めて知って、とてもおどろいたことを思い出して描きました。最近もよく見ます。

また色々な鳥たちに出会いたいです。



①シロちゃん



④ジョウビタキ



②スズメ



③ルリビタキ

(編集部、註) カラーでお見せできないのが残念!

ぜひ、支部のホームページをご覧ください。

## カワセミの衝突

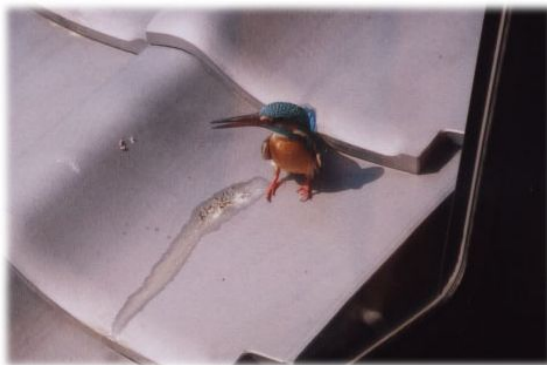
たつの市 乾 恵子

3月10日午前10時頃のこと。12階南側の窓ガラスに大きな音。カラスの衝突かと思ったら、「カワセミが倒れている」と知らされ、すっとんでいく。

カワセミはすでに立ち上がっていた。なんと2羽も。つがいらしい。窓から50cmほど前の屋根瓦の上。我が家は川沿いなので、カワセミはおなじみの鳥だが、目の前で観察できるなんて、初めてのこと。

日が当たっているガラス越しなので、鳥の邪魔にはならない好条件だ。2羽ともじっと立ったまま、わずかに体の向きを変え全身の鮮やかな色を見せてくれる。ときどき長い嘴を開けたり閉じたり。口の中は足と同じ朱色だったのには、思わず感嘆の声をあげた。腹部の毛がちょっと乱れている。窓ガラスを見ると、ぶつかった跡らしく2か所、ふわふわ毛がついていた。毛が変わる時期なのか、衝撃の強さによるものか？やがて、1羽が糞を残して飛び立った。残る鳥に何の挨拶もなく（と思う）。数分後、もう1羽も静かに行ってしまった。もちろん川の方へ。

夢のようなひとときだった。



## 江井ヶ島にシマアジ初登場！

明石市 長尾 高明

僕のバードウォッチングの師匠が電子掲示板（当時はインターネットが世に出てなかったので、まだ「パソコン通信」でした）に、

大阪のとある池でヨシゴイが出たという書き込みに対し『実を言うと親戚筋のリユウキュウヨシゴイは見たことがあるけど、まだヨシゴイを見たことがない』と書き込んだのを「へえ～、そんな事もあるんだ」と感心したのを今でも覚えている。

物には順序があり、鳥も普通種から、だんだん珍鳥、迷鳥へと少しずつ階段を上がるようにステップアップしていくものだと思っていたからだ。

事実、僕はヨシゴイはマイフィールドの江井ヶ島で見ているがリユウキュウヨシゴイはまだ見ていないのだ（エッペン）。

と、前振りはこのくらいにして、カモたちがそろそろ北の国に帰り始める3月28日、江井ヶ島の上池を見に行くと足元から小さなカモが飛び立った。

「あ、シマアジ！」

あの独特の白い眉斑は双眼鏡無しでもすぐ分かった。シマアジは秋が春に良く見られるというが、本当にもうすぐ4月という、こんな時期に現れた。

実をいうと、江井ヶ島で次に見るカモはきつとシマアジだろうとヤマをはっていたのだ。

カルガモ～オカヨシガモまで普通ガモ7種は既に全部見ているし、ミコアイサは毎年必ず出ている。アカハジロ、ヨシガモ、ホオジロガモ、トモエガモ、アメリカヒドリ、ツクシガモなど、「その次」も皆見ている。カワアイサ、ウミアイサも確認済み。

となると、可能性としてはシマアジしか残っていなかったのだ。

しかし、本当に予想通りシマアジが出るとはネ。

となると、ちゃんと観察しなきゃ。

1番驚いたのは、その小ささ。コガモ並に小さい。シマアジって、こんなに小さいとは思わなかった。コガモの体長が37.5cmに対し、シマアジは38cm。

恥ずかしながら、僕がバードウォッチングを始めて間もない頃、明石公園の剛の池にいたカルガモを見て、図鑑と比較しながら導き出した答えは「シマアジの♀」。もちろん、今ならそんな間違いは絶対しないが、その時カルガモの全長（61cm）とシマアジの全

長をちゃんと見比べなかったのが敗因だろう。その後も「見たら絶対判る」という自信からシマアジの体長を確認しないまま今日まで来てしまったのが今回の驚きに繋がっている。一説によるとシマアジの「シマ」は『（形の）変わった』という意味で「アジ」はコガモの古名、つまり『変わったコガモ』という意味だとか。大きさがコガモとほぼ同じなのを見て、これで納得。

次に、鳴き声。♂は「ギリギリギリ」と歯ざしりみみたいな声で鳴くのだが、最初シマアジの鳴き声だとは思わなかった。ヒドリガモの♂の「ピュー」もカモらしくないが、シマアジも、およそカモの鳴き声とは思えない。結局、3月28日～4月19日まで2羽～6羽（♂4、♀2：4月11日）～2羽と数の変動はあったものの23日間、この上池に滞在したため、「これがシマアジの鳴き声か」と気づいたが1回だけ聞いたら判らなかったと思う。



とにかく、これで僕の255種目（江井ヶ島では131種目）はゲット。「え、まだ見たことなかったの？」と言われそうだが、「そうだよ！シマアジもサンコウチョウもライチョウも見てないよ！えっへん」

あ、そういえば、13年前に木曾川でミカツキシマアジを先に見ちゃったなあ。

いやあ、皆さん、物には順序がありますよね、本当に。

## 私のスケッチブックから 絵

■ ミヤコドリ

名越正男

NAGOSHI MASAO

